

# Book Review

## 科学的根拠に基づく 歯周病へのアプローチ

清水宏康 著



Reviewer

二階堂雅彦 Masahiko Nikaido  
(東京都・二階堂歯科医院)

A4 判変, 176 頁  
オールカラー  
定価 (本体 8,200 円+税)  
医歯薬出版刊



歯周病を語る書籍は多く発行されているが、それらは主に経験に基づく症例集が大半であり、また“Evidence Based”(科学的根拠に基づく)を謳うものでも、文献的解釈に偏ったものが多い。本書のように科学的根拠とそれに基づく症例をバランスよく編んだものは、国際的に見ても少ないのではないかと思う。それが本書のオリジナリティである。

本書の著者、清水宏康先生はまだ40歳代で、歯科界では若手と評されるかもしれない。卒業後は比較的早くに開業し、それを成功させ、その後はアメリカの歯周病学プログラムで学んだという経歴をもつ。評者とはEPICという歯周病の研修会をともに運営している10年来の友人であり、また同志でもある。EPICという名前は、英語の“Evidence based Periodontics and Implantology Course”に由来し、直訳すれば「科学的根拠に基づく歯周治療、インプラント治療のコース」と

いうことになる。その意味ではEPICのコンセプトを具体的に表したものが本書であるといえる。

本書で特筆すべきことはいくつかあるが、まず治療計画立案にあたり患者自身の予後を付与していることであろう。従来の成書ではどうしても個々の歯の状況に目を向ける一方、患者に対する評価を述べるものがほとんどなかった。これは“発症リスクが患者因子に起因する”歯周病の成り立ちを考えれば当然なのであるが、今までこういったアプローチをするものがなく、これが本書でまず目を惹かれるところである。さらに特筆すべきは、その症例のドキュメンテーションの見事なところである。本書は非常に質の高い口腔内写真とX線写真により構成されている。また外科処置も良くまとまっており、外科処置中の写真も痒いところに手が届くように読者が興味をもつ点を的確にとらえている。これらが「言うは易く、行うに難し」なのは、

症例発表を行ったことのある歯科医であれば、誰もが同意するところだろう。

最後にあえて少し苦言を述べる。本書を通読して気になったのは、根分岐部病変に対する記載が本文中にはあるものの、歯周チャートにないことである。清水先生は進行した根分岐部病変に果敢にも挑んでいる症例がいくつかみられたが、それがどのような治療過程を得られたのか、比較的小さな全顎のX線写真より推察するしかなかった。また、選択された論文とそのロジックの構成は、EPICの講義で使用されているものが少なからず見られ、この部分では評者には少し物足りなく感じられたが、これは長い知り合いである評者の叱咤激励と捉えていただきたい。

科学的根拠とそれに基づく症例を美しくまとめた本書は、よりよい歯周治療を求める歯科医にとって福音となる良書であり、清水先生の今後の活躍がますます楽しみな一冊でもある。